

## 対話形式の鑑賞の授業実践報告

都立板橋高等学校教諭 栗原

昨年の研究会で近代美術館の一條さんの鑑賞についての話を伺い授業にも取り入れた実践の報告である。実践に当たっては、どんな意見も尊重する。どんな意見を言うのも正解だと生徒にあらかじめ言っておいた。

「アルノルフィーニ夫妻の肖像」

ヤン・ファン・エイク

2年生に実施 進め方

何が描かれているのかひたすら探させてはじから発言させた。

靴、ベッド、果物、文字、ろうそくが一本だけなど描かれている物に対しての発言から人物の表情に話題が入っていった。

- ・夫妻っていうタイトルから結婚の絵では？
- ・男ー幸せそうには見えない。女ーこびるような目つき。本当は幸せではないのではないか
- ・お見合いの席ではないか
- ・結婚の絵かもしれないが、別れを予見しているのでは？



などとかなり活発な意見が交わされた。特に印象的だったのは、人物の表情をよく読み取っているという点であった。我々は普段知識として（結婚の証明の絵）などと認識しているが、生徒はそういう先入観にはとらわれずに自由に意見を述べていた。この絵の近年の研究では身分違いの婚礼の絵（正式の相続ができない結婚）ではないかとの見解も出ているということで、真実は知る由もないが、生徒の意見の真摯な点には驚かされた。

「解放」ベン・シャーン

二年生最後の美術の授業で取り組んだ。

2012年3月神奈川県立美術館葉山館にてベン・シャーンの展覧会が開催された。教育テレビの日曜美術館でも取り上げられ、彼の社会に向けて発信した生き方がラッキードラゴンシリーズも含め、わかりやすく放送された。3.11の後改めて原子力に向き合う我々にも生徒にとっても重要だと考えて実施した。

「解放」には何がかいてある？

・瓦礫がいっぱいある  
・津波が来たのではないか  
・原発の爆発  
・子供の表情が死んでいる  
・カラフル  
なぜカラフルなのか？



・布団が干してあるから？  
・ちがうよ一壁が崩れて部屋の壁が見えているんじゃない？  
・アーなるほど

・子供が遊んでいて楽しそう

・解放というタイトルを考えると何か牢獄のような所から解放された決して暗いだけの絵ではないのではないか

授業を行ってみて

生徒の意見の中で津波・原発という言葉がすぐに出てきたことに311が生徒に与えた影響の大きさを感じずにはいられなかった。子供の表情の暗さに対しても、単なる暗さだけではなく、安堵の表情までも読み取った生徒がいた。

この鑑賞の後ラッキードラゴンシリーズなどをDVDで見たが、社会に目を向けて描いていったベン・シャーンの生き方を知ってほしい。また、今日本では原発に対していろいろの意見があるが、様々な立場・意見を知り、社会に目を向けることの重要性を伝えたいという意図をもって授業を実施した。

生徒の意見は拙いながらも素直で鋭いものであった。つい、感心してしまいどんな意見も公平に尊重するということが難しいと感じた。アートとは絵画、作者だけではなく、鑑賞者がその作品と対峙する事によって初めて成立することを実感した。